

なぜ必要？ 給食センター

四月十二日告示の村議会議員一般選挙は、無投票で全員当選となりました。おめでとうござります。今後のご活躍をお祈りいたします。

なお、選挙前の数ヶ月、立候補予定者の後援会活動が活発になり、いくつかのリーフレットや後援会だよりをいただきました。その中には今年度から始める給食センター建設に反対のご意見もありました。

広報ちようせい四月号の「村長日記」でもふれておりますが、再度詳しく説明します。

① 小中学校給食施設の老朽化

(令和四年四月現在)

一松小(築三十五年)八積小(築三十四年)高根小(築三十九年)長生中(築二十六年)で、従来より国・県から衛生上の問題、調理スペースの問題等の指摘を受け簡易な対応をしてきました。

② 子ども達に安全・安心な給食の提供

文部科学省学校給食安全基準に適合した施設として次の部屋を設置する計画です。
汚染作業区域と非汚染作業区域の動線を遮断した配置とし、汚染作業区域は、風除室、検

収室、米庫、洗米室、食品庫、仕分け室、魚肉・野菜下処理室、洗浄室、残菜室、倉庫、ゴミ庫など。

非汚染作業区域は、加熱調理室、炊飯室、和え物室、アレルギー調理室、コンテナ室、配膳室など。その他、前室、設備機械室、プラントホール、事務室、女子・男子更衣休憩室、女子・男子外来用トイレ、洗濯乾燥室、給湯スペース、防災倉庫、運転手室など。

このように、小中学校四カ所にこの部屋を全て設置するには無理があります。

③ 「学校給食のあり方検討委員会」からの意見

教育委員、学校長、PTA役員、学校栄養職員十五名で構成された検討委員会からは、安全で安心な給食を提供するには、共同調理場方式(センター方式)の施設建設が望ましいとの



茂原市学校給食センター



東庄町学校給食センター

報告をいただいております。

④ 調理ルート別にする事ができるため、食物アレルギーに対応できる施設となります。

⑤ 耐震建物として、災害時には避難施設に温かい(冷たい)食事を提供できます。

⑥ 村内どこに建設しても五分から十分に配送でき、保温庫、保温庫を使うことで温かい物は温かいうちに、冷たい物は冷たいうちに食べることができ

ます。従来からの合鴨米など地元の食材を継続して使用していきます。

⑦ 見学スペースを設置し、子ども達への食育を進めます。現在は調理の状況を見ることはできません。

⑧ 学校敷地以外へ建設することで、現在の給食をそれぞれで提供しながら、給食を止めることなく新しい給食にスムーズに移行できます。

◎長生村を二十年、三十年と残していくには、経済性や合理性も必要です。

・食材をまとめて購入することで安く、無駄も減る。
・将来子ども数が減っても他の活用など対応できる。

本村の児童生徒数は、令和四年四月一日時点で一松小一二五名、八積小二〇九名、高根小二〇六名、長生中三三五名の合計八七五名ですが、十年前の一五四名から二七九名減っており、今後も減少が予測されることから一ヶ所の施設で運営していくことで、安全・安心が保たれるため一番合理的です。
減った人数分は将来、要支援家庭や高齢者施設への配食も考えられます。

◇おだか陽一後援会員を募集しております。

[申し込みはおだか陽一後援会事務所。またはお近くの役員までお願いします。]

おだか陽一公式ホームページは下記のURLまたは<おだか陽一>で検索
<http://odakayoichi.com/>